

情報理工学系研究科
江崎浩研究室

東大を舞台とする壮大な実験 ——グリーン東大工学部 プロジェクトの可能性

東大そのものを実験の対象にする……この大胆な発想を実行に移した「グリーンITによるCO₂削減プロジェクト」が始まっている。建物からキャンパス全体へ、都市へ、地方へ、国へ、そして、世界へ。研究者達のイメージはいつしか地球レベルへと広がっていく。



江崎浩

情報理工学系研究科 教授

私の研究室で蓄積・醸成された研究活動は、松本洋一郎工学部長（2007年12月時点）が、本郷キャンパスから根津駅に向かう師走の夜にさりげなく囁かれた一言から、急速に増殖を始めた。「工学部2号館の省エネを実現できないか?」。「単純な」省エネ事業では価値がないので、「研究開発を産学連携で推進する」ことを（確固たる実現性は考えずに）条件とした。こうして、始まったのが、ICT（情報通信）技術などによって使用電力量とCO₂を削減する実験プロジェクト、「グリーン東大工学部プロジェクト」である。ありがたいことに、コアとなる発起人組織は約30組織集まった。次のチャレンジは小宮山宏総長（当時）からの、「新産業の創成」であった。難題であるが「我が意を得たり」。すぐに、本プロジェクトのミッションにさせていただいた。2008年6月にプロジェクトを発足、公的資金への提案を取って行わず、企業からの支援のみでプロジェクトを運用することとし、「2年間で活動を総括し、次を考える」を、参加組織のみなさんとの約束とした。リーマンショックの中での各企業との契約交渉であり、プロジェクトの価値への期待値なしには、離陸することができない状況であった。参加組織の担当者および幹部の方々のご理解とご高配、産学連携本部や情報理工学系研究科スタッフの

方々のご尽力により、プロジェクトは無事発足、活動を開始することができた。2008年度は、プロジェクトの構造が評価され、グッドデザイン賞を受賞させて頂いた。2009年度は、参加組織の皆さんのご尽力により、京都議定書（COP3）およびTSCPの目標達成の貢献に資する成果が着実に具現化されつつある。本プロジェクトの活動は、発足当初から工学部のみへの展開ではなく、東京都などの自治体や大学などの公共施設への展開、さらに、グローバルへの展開を目標とした。特に、SmartGridなど国際標準化活動や、キャンパスなど広域展開する施設における新しいエネルギー管理手法とビジネスへの可能性への展開を戦略的に推進している。本プロジェクトは、「情報工学」と「エネルギー工学」、さらに「都市設計学」との有機的で創造的な融合を実現し、21世紀の課題である「持続可能な社会」の実現に資する新分野の創成を目指している。